

江戸時代の町なみ

八丁堀(のちの八丁堀)の水路を中心に埋め立てられてできたこのエリアには、武家屋敷や町奉行の与力・同心の組屋敷が多く、その間に商人や職人の町が栄えた。霊岸島の南は、江戸湊に出入りする千石船(→p.38)の停泊地で、水運関係の業者が栄える湊町だった。上方(関西)から届いた物資はこの辺りで小舟に積みかえられて、江戸の町なかの運河沿いにあった河岸へと運ばれた。



植木長屋があった町

1 坂本町 (現・日本橋兜町)
近江比叡山の山の神をまつる神社(山王御旅所、現・日枝神社日本橋撰社)への通り道にあり、町名は比叡山の山ろくの坂本村(現・滋賀県大津市)にちなんでつけられた。町の北部の通りは植木職人がたくさん住む植木店(植木長屋)とよばれ、南茅場町の薬師堂の縁日では夕刻から盆栽や植木の市が立った。



与力・同心が集められた

与力・同心組屋敷
与力や同心(→p.44)の住まいは、もともとは町のあちこちにあったが、八丁堀の北側一帯にあった寺院が江戸郊外に移されたことで、宝永年間(1704~1710)に八丁堀に集められた。「クミ」と書いてあるところが、与力・同心の組屋敷だ。

八丁堀沿いに広がる町

2 本八丁堀 (現・八丁堀三~四丁目)
3 南八丁堀 (現・新富一丁目、入船一丁目、湊一丁目)
八丁堀の北岸に「本八丁堀(北八丁堀)」、南岸に「南八丁堀」があった。昔は八丁堀とも書いた。堀の周りにはたくさんの河岸があり、本八丁堀は材木問屋、まき・炭の問屋の町として知られた。一~五丁目まであり、三丁目の大半が大商人・紀伊国屋文左衛門(→p.37)の屋敷だった。

4 大富町 (現・新富一丁目)
1778(安永7)年に名主市蔵が新たに町をつくった。西側にはあさり河岸があり、剣道の幕末江戸三大道場の1つ、鏡新明智流の桃井春蔵の道場・士学館があった。

D (→p.177)

北
南
西
東

大名や町奉行の屋敷ととなり合わせた

5 南茅場町 (現・日本橋茅場町一丁目)
もともとはアシのしげる水辺で、埋め立て後に神田橋周辺の茅商人が移り住んだので茅場町になった。明暦の大火のあと、茅商人は両国橋東岸に移り本所茅場町(現・墨田区江東橋)ができたため、日本橋川の南岸にあるこの地は、南茅場町とよばれるようになった。

6 亀島町 (現・日本橋茅場町二~三丁目)
瓶を売る人が多かったことからこの町名になったという説と、昔は亀に似た形をした小島があったからという説がある。入堀(水路)にかかる地蔵橋の際に、浮世絵師の東洲斎写楽が住んでいたといわれる。



寺を建てるために埋め立てた

7 霊岸島町 (現・新川一丁目)
代々の徳川家に尊敬されてきた僧侶の雄誉霊巖上人が、1624(寛永元)年に寄付された沼地を埋め立てて島をつくり、霊巖寺を建てたことから霊巖島とよばれた。明暦の大火のあと、霊巖寺は深川へ移転し、四日市町、塩町、浜町、銀町、長崎町などの町ができた。瀬戸物問屋がたくさんあった。



8 富島町 (現・新川一丁目)
1845(弘化2)年に霊巖島町の西側を埋め立ててできた。埋め立て当初は地盤が安定しなくて地面がぶよぶよしていたために、「こんにやく島」とよばれていた。

海運業を支えた湊町

9 川口町 (現・新川二丁目)
もとは築地の南本郷町(→p.205)の隅田川河口部にあったが、元禄年間(1688~1704)にこの地に移転した。漁師、船大工が多く住んでいた。



10 南新堀町 (現・新川一丁目)
1620(元和6)年に日本橋川の下流を切り開いてつくった新しい堀(水路)の南岸にできた町。水運の船が出入りする河岸地で、上方でつくられた「下り酒」など下りもの問屋が並んでいた。対岸には北新堀町(→p.159)があった。

11 本湊町/鉄砲洲 (現・湊一~二丁目)
本湊町の町名は、全国各地から廻船が出入りしたことにちなむ。海岸沿いには炭・まきの問屋が多かった。南につながる船松町、十軒町、明石町(→p.205)をふくめてこの一帯を鉄砲洲とよんだ。地名の由来は、大砲の練習場があったことや、細長い地形が鉄砲の形に似ていたからだといわれている。



ほんとだ!
鉄砲みたい!!

